



雲南市における 首長部局と教育委員会の連携

平成28年7月29日

島根県 雲南市

(教育委員会社会教育課・政策企画部地域振興課)

構 成

1. 連携の状況
2. 連携の背景
3. 留意点
4. 制度・政策上の課題提起

首長部局と教育委員会の連携状況

①地域への個別訪問



- ・首長関係部局（地域振興部局、福祉・健康部局等）と教育委員会と一緒に、全ての地域を訪問して意見交換し、相互に状況や課題を把握。
- ・地域（市民）を起点に、その対策を考える。

③地域円卓会議



- ・地域と行政の対等な協議の場。
- ・全市共通テーマと、該当地域のみの個別テーマで構成。生涯学習と社会教育は共通テーマ。
- ・部局を問わず、関係する者が集まる。

②関係部局会議

- ・首長関係部局（地域振興部局、福祉・健康部局等）と教育委員会の実務レベル担当者で定期的に会合をもち、相互に状況を共有し、対策を協議する場。
- ・開催頻度は、2～3週間に1回程度。
- ・主たる関係部局は、話し合う議題がなくても集まるのが基本。

④各種研修

- ・毎年度、新任スタッフ研修を開催。
- ・地域づくり、地域福祉、生涯学習・社会教育（人権含む）は共通テーマ。
- ・その他、必要な研修を随時開催。（地域の計画策定、広報誌づくりなど）
- ・地域ニーズに応じて開催。

2

その他民間団体との連携状況

■（特非）カタリバとの連携

●不登校対策

平成27年6月から閉校となった小学校校舎を拠点とし、雲南市教育支援センター「おんせんキャンパス」（適応指導教室）として開校。カタリバの充実したスタッフ（教員免許、臨床心理士、社会福祉士、大学生）により子どもに応じた指導を展開。学校・保護者ともきめ細かい情報交換を行い、地域の活動にも積極的に参加し、田植えなど体験活動には地域の方に講師となってもらうなどし、連携が進んでいる。

●キャリア教育の推進

同じくおんせんキャンパスを拠点とし、カタリバスタッフによるキャリア教育の推進に取り組んでいる。

＜社会教育の充実＞

- ・中高校生の幸雲南塾：参加者を募集し、大学生・社会人ゲストと一緒にワークショップを開催。ICTの活用や大学生による学習支援に取り組んでいる。

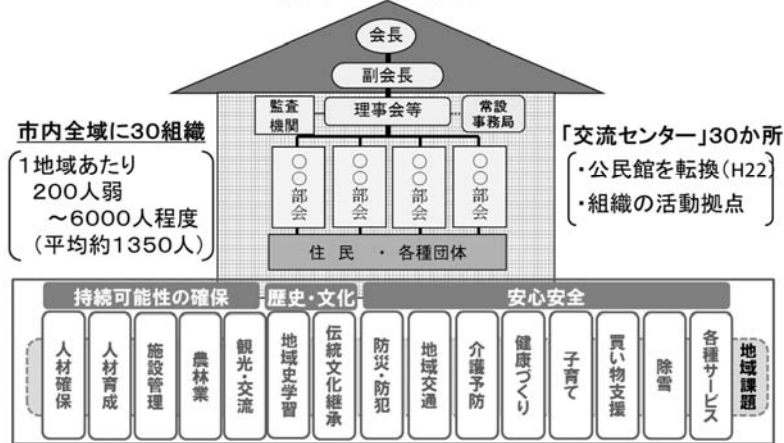
＜学校教育との連携・協働＞

- ・中学校総合の時間をコーディネート
- ・中2カタリバの開催

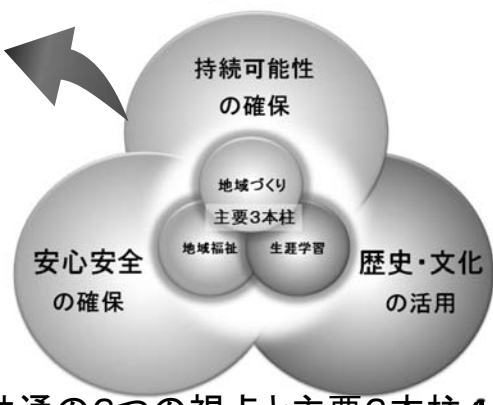
3

連携の背景①

地域自主組織との関係 ～概ね小学校区～



市内全域
30組織



- ・生涯学習は、首長部局(地域振興課)
- ・社会教育は、教育委員会(社会教育課)
- ・福祉や危機管理など、様々な部署が関わる

共通の3つの視点と主要3本柱4

連携の背景②

「夢」発見プログラム

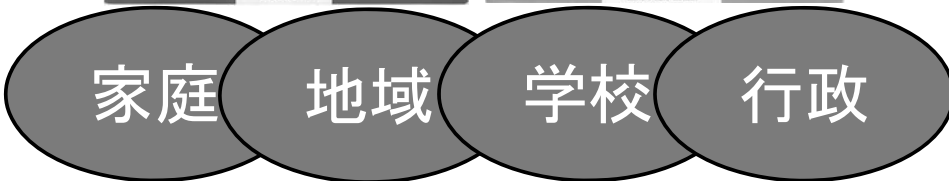
(雲南市キャリア教育推進プログラム)



「目標」「めざす子どもの姿」を共有

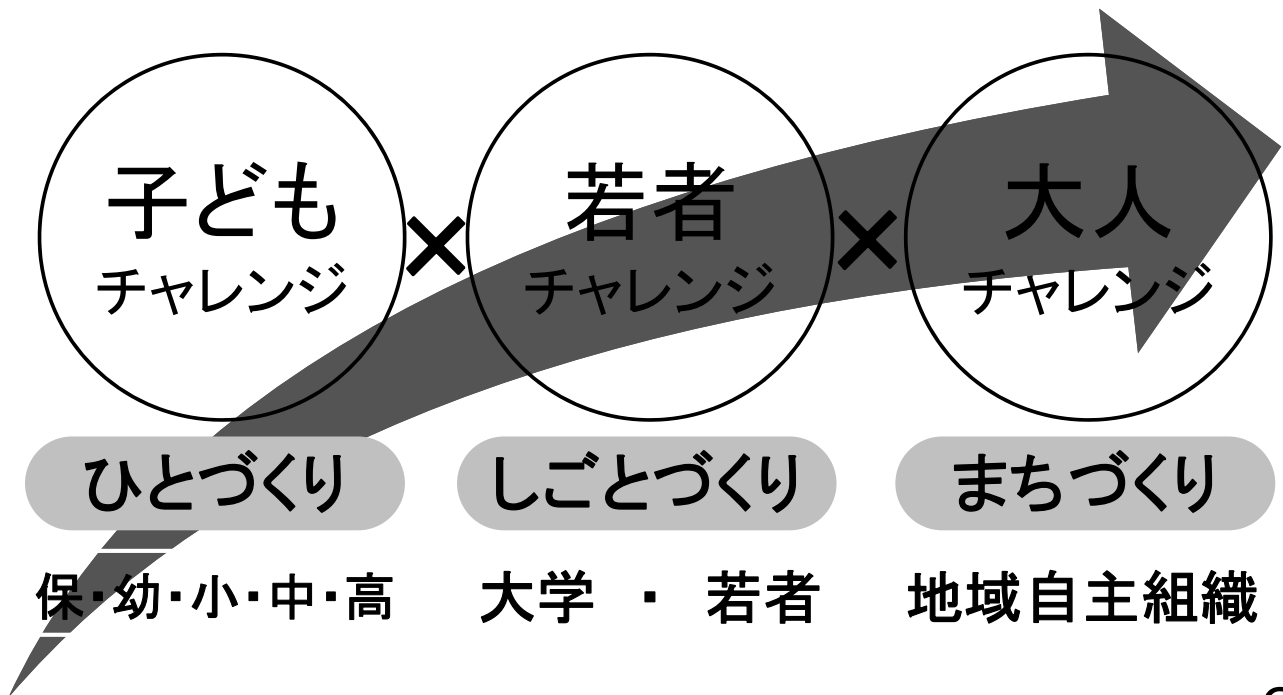
- <育てたい力>
1. 人間関係形成・社会形成能力
 2. 自己理解・自己管理能力
 3. 課題対応能力
 4. キャリアプランニング能力

保・幼・小・中・高の段階に応じて、それぞれの立場から体系的に子どもを育てる。



連携の背景③

チャレンジの連鎖



6

教育委員会と首長部局との連携上の課題

- ・当初は、地域づくり担当は併任辞令をもって、ともに推進する立場であったが、次第に両者の立場が接することが少なくなり、結果的に併任辞令はなくなった。
- ・課題意識の共有が図れなくなることがあり、連携も薄くなってきたため、本年度からは定期的に協議の場を設けることにより、連携を強化した。
- ・例えば、閉校までは教育委員会、閉校後は首長部局(地域振興課等)で基本的には対応中。しかし、地域によっては一連の過程の中の一つ。

7

留意点

- ①市民主体の生涯学習と行政(社会教育)の責務例;地域の意見)顔が見えない=方針がみえない
そのためには、関係部局も含め、市民との方針の共有が必要。
- ②一人ひとりの主体性を発揮するためには、特に大人の場合は「教える」スタンスではなく、「学び合い・気づく」ことが重要。
そのために社会教育的アプローチを使うという観点が必要。

8

制度・政策上の課題提起

- ①地域課題の解決のためには、各部局も含め、相互の連携が欠かせない。縦割りではなく、横断的に物事を考えることが必要。
- ②持続的かつ効果的に課題解決につなげるために、生涯学習の観点は重要。
 - ・ただし、「生涯学習」は目的ではなく手段。
本来の目的は、「人づくり」であるはず。
 - ・そして、大切なのは「公民館」ではなく、「人づくり」という機能。
 - ・したがって、公民館に固執することなく、拠点施設には人づくりのための機能を盛り込むべき。(いわゆるコミュニティセンターには、人づくりの観点を入れるべき。)

9

起点は“市民”で主役は“市民”

